

ESPフォーキャスト調査 質問票  
2019年3月調査 (3月18日頃公表予定)  
(回答の送信期限:3月11日 17時)

2次QE 版

機関名  
フォーキャスター 氏名

- とりまとめの際のフォーキャスター一覧の機関名、肩書、氏名等の記載を変更したい場合は、お書き添えください。
- 数字は半角で打ち込んでください。

I-(1) 年度(米国、中国、ユーロ圏のGDP、NY原油価格は暦年)

年度	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	寄与度%	増減率%	増減率%	寄与度%	増減率%	増減率%	増減率%	兆円	上昇率%	*消費増税の影響を除く	%	増減率%	%	円	増減率%	円	増減率%	期中平均	増減率%	兆円	増減率%
2017 実績	2.0	1.9	1.1	▲0.7	4.6	0.1	0.4	0.5	0.0	6.4	4.0	2.9	21.8	0.7	-	2.7	0.7	0.05	20961	3.8	110.8	2.2	50.9	6.8	2.4	2.4
2018 予測																						2.9	64.9	6.6		1.8
2019 #																										
2020 #																										

注:①国債流通利回り、日経平均株価、円相場、NY原油価格は、いずれも**営業日平均**。②名目賃金指数は、毎月勤労統計調査の事業所規模5人以上(パートタイム労働者を含む)の現金給与総額

I-(2) 予測値の主観的な分布  
・実質GDP増加率

	x ≤ -3	-3 < x ≤ -2.5	-2.5 < x ≤ -2	-2 < x ≤ -1.5	-1.5 < x ≤ -1	-1 < x ≤ -0.5	-0.5 < x ≤ 0	0 < x ≤ 0.5	0.5 < x ≤ 1	1 < x ≤ 1.5	1.5 < x ≤ 2	2 < x ≤ 2.5	2.5 < x ≤ 3	3 < x	合計値
(例)x年度予測				10	10	50	20	10							100
2018 予測															0
2019 #															0
2020 #															0

・OP(生鮮食品除く総合)上昇率(消費増税の影響含む)

	x ≤ -2	-2 < x ≤ -1.75	-1.75 < x ≤ -1.5	-1.5 < x ≤ -1.25	-1.25 < x ≤ -1	-1 < x ≤ -0.75	-0.75 < x ≤ -0.5	-0.5 < x ≤ -0.25	-0.25 < x ≤ 0	0 < x ≤ 0.25	0.25 < x ≤ 0.5	0.5 < x ≤ 0.75	0.75 < x ≤ 1	1 < x ≤ 1.25	1.25 < x ≤ 1.5	1.5 < x ≤ 1.75	1.75 < x ≤ 2	2 < x ≤ 2.25	2.25 < x ≤ 2.5	2.5 < x ≤ 2.75	2.75 < x ≤ 3	3 < x	合計値	
(例)x年度予測								5	15	20	30	20	10											100
2018 予測																								0
2019 #																								0
2020 #																								0

II. 四半期

四半期	実質GDP		実質民間最終消費支出	実質民間企業設備投資	実質財貨・サービスの輸出	実質財貨・サービスの輸入	消費者物価(生鮮食品除く総合)		完全失業率	円相場(対ドル)	株価(日経平均)	鉱工業生産指数
	前期比年率%	前期比%					前年同期比%	*消費増税の影響を除く				
2018Ⅲ 実績	▲2.4	▲0.6	▲0.2	▲2.6	▲1.4	▲0.7	0.9	-	2.4	113.4	24120	▲1.3
2018Ⅳ #	1.9	0.5	0.4	2.7	1.0	2.7	0.9		2.4	110.4	20015	1.9
2019 I 予測												
2019 II #												
2019 III #												
2019 IV #												
2020 I #												
2020 II #												
2020 III #												
2020 IV #												
2021 I #												

III. 総合景気判断DI

- 総合景気判断として、各期ごとに「上昇」、「横ばい」、「下降」のいずれかを選択し、以下の該当する欄に"○"を入力してください。

	総合景気判断		
	上昇	横ばい	下降
2019 I 予測			
2019 II #			
2019 III #			
2019 IV #			
2020 I #			
2020 II #			
2020 III #			
2020 IV #			

参考:景気動向指数DI(一致指数)の動きを想定して、以下のようにご判断ください。  
当期のDIが50超であると思われる場合 → 「上昇」  
当期のDIが50未満であると思われる場合 → 「下降」  
当期のDIが50近傍、または明確な動きにならないと思われる場合 → 「横ばい」

IV. 19年1~3月期の成長率(その他項目)

- 「II」の項目以外の前期比伸び率が、「上昇(伸び率の符号はプラス)」、「ほぼゼロ」、「低下(伸び率の符号はマイナス)のいずれかを選択し、以下の該当する欄に"○"を入力してください。在庫変動については、前期比伸び率ではなく、実質GDP成長率に対する寄与度についてお答えください。

(実質)	前期比伸び率		
	上昇	横ばい	低下
民間住宅投資			
民間在庫変動(寄与度)			
公的固定資本形成			
政府最終消費			
公的在庫変動(寄与度)			

V. 景気の転換点

- 政府見解では2012年11月が景気の谷となっています。さらに、18年12月の内閣府景気動向指数研究会で17年8月以前に景気の山はつかないことが確認されました。それ以降、その次の景気の**転換点(山)**はもう過ぎたとお考えですか。

- (1) 「はい」、「いいえ」の一方に"○"を入力してください。

はい	いいえ
----	-----

- (2) ●(1)で「はい」の場合にお答え下さい。

転換点(山)はいつだったとお考えですか。"年(西暦4ケタ)"と"月"を記入してください。

年	月
---	---

%
---

- (2) ●(1)で「いいえ」の場合にお答え下さい。

今後1年以内に景気の**転換点(山)**がくる確率は何の位あると予測していますか。%で記入して下さい。

- (3) ●(1)で「はい」の場合にお答え下さい。

その次の景気の**転換点(谷)**ももう過ぎたとお考えですか。

「はい」、「いいえ」の一方に"○"を入力してください。

はい	いいえ
----	-----

- (4) ●(3)で「はい」の場合にお答え下さい。

転換点(谷)はいつだったとお考えですか。"年(西暦4ケタ)"と"月"を記入してください。

年	月
---	---

%
---

